【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第３区分
【発行日】平成23年6月2日(2011.6.2)

【公開番号】特開2010-160821(P2010-160821A)
【公開日】平成22年7月22日(2010.7.22)
【年通号数】公開・登録公報2010-029
【出願番号】特願2010-99296(P2010-99296)
【国際特許分類】
Ｇ０６Ｑ　30/00　　(2006.01)
Ｇ０６Ｑ　40/00　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０６Ｆ　17/60　　３１６
Ｇ０６Ｆ　17/60　　２３４Ｃ
Ｇ０６Ｆ　17/60　　２３４Ｇ
Ｇ０６Ｆ　17/60　　２４０
Ｇ０６Ｆ　17/60　　２５０

【手続補正書】
【提出日】平成22年4月22日(2010.4.22)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００２】
（関連出願の説明）
本出願は、１９９６年１２月１３日に出願された、米国特許第０８／７６６，７３３号の部分継続出願（現在は米国特許第５，９０５，９７４号）である。本明細書中、同特許の開示内容全体を参考のため援用する。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００４】
長年にわたって、バイヤーとセラーとを結び付けるように適合された多くの異なるアプローチが作成されてきた。これらのアプローチの各々は、バイヤーおよびセラー双方の希望を満たす物品「市場」価格（またはそのような価格にできるだけ近い価格）でのトランザクションを可能にする目的を有する。市場価格とは定義上では、十分に成熟した市場において、十分なアクセスが与えられると、選択された物品のトランザクションが行われる（所与の通貨額の）価格である。市場価格は、実質的に全ての潜在的バイヤーおよびセラーがトランザクションに十分にアクセスすることを可能にし、各関係者の希望を示すことを可能にすることによってのみ達成可能となる価格である。しかし、バイヤーとセラーとの間のトランザクションは、非常に低コストで行えるものにしないと、人為的に高額なトランザクションコストのために、物品の市場価格が歪められてしまう。従って、効果的なバイヤー／セラートランザクションへの２つの主要な鍵（すなわち、表現および知識の十分なアクセスと低額のトランザクションコストとの組み合わせ）は、競合し得またそうであることが多く、そのため、売買効率と市場知識との間の売買フが必ずつきものとなる。
【手続補正３】

【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００７】
米国政府によって発行される確定利付証券は、米国財務省証券として知られる。これらの証券の満期日は典型的には、１３～５２週（財務省短期債券）後、１～１０年（手形）後および～３０年（債券）後に来る。財務省短期債券は、利札の無い、純粋な割引証券である。他の多くの財務省証券は、期間がより長い利札付き手形または利札付き債券であり、半年毎の一定の利子支払いサイクルで、所有者に利子を支払う。別のより最近の種類の財務省証券は、インフレ時、物価スライド方式で支払いを行う。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００８】
財務省証券は、本発明の目的のために特に有用な特性を有し、従って基本的な原理を有する、以下の説明において財務省証券のみを用いるが、本明細書の原理は、本発明の概念から逸脱することなく、他の種類の資産（例えば、証券、金融証券、商品、およびデリバティブ等）にも適用可能である。本明細書の原理は、本発明の概念から逸脱することなく、他の種類の資産（例えば、証券、金融証券、商品、およびデリバティブ等）にも適用可能である。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００９】
新規な財務省証券は、事前に確定しているオークション日に、米国政府によってオークションにかけられる。新規に振り出される財務省証券のオークション価格は、額面価格を設定利率と共に有し、振出し時の利回りを規定する。オークション後、これらの財務省証券は、流通市場へと入り、「カウンタ越しに（すなわち、一定の相場を用いずに）」売買されることが多い。インフレ予測および需要／供給状態が変化すると、ごく最近にオークションにかけられた財務省証券の価格が流通市場において変動する。これらの新規な価格は、流通市場内の機関、銀行、仲介人、およびディーラーの間でやり取りされる、入札価格と落札価格との間の競合結果を反映する。
【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１１】
従って、財務省証券市場のサイズおよび多様性にこそ、これらの証券に関連する入札トランザクション、落札トランザクション、購買トランザクションおよび販売トランザクションにおける市場参加者により、高いレベルの精巧化を施す必要がある。トランザクションに関連する複雑性と、銀行、仲介人、ディーラーおよび機関参加者により引き受けられる売買のスケールとにこそ、厳正に構築された売買アプローチが必要である。
【手続補正７】
【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１４】
このプロセスを多岐にわたり変更することについて、以下に詳細に説明する。ここでは、公開呼び売りオークションプロセスの発展時では存在するトランザクションの量が少ない点と、このプロセスに代わる適切な代替物が無い点とにおいて、公開呼び売りオークションプロセスは、何十年もの間支配的な売買メカニズムで有り続けてきたと述べれば十分であろう。しかし、いかに成功を収めてきたとはいえ、このアプローチは完全ではない。実際、近年になって、確定利付分野において取り扱われている売買量が急激に増加したために、公開呼び売りオークションの現場においていくつかの問題が深刻になっている。このような問題は通常、取引者の人員を公開呼び売りオークションプロセスに注入することによって発生している。例えば、量的にも重要度的にもレベルの低い顧客グループを代理する者が、よく響く大きな声を持っているというだけで、事実上売買およびトランザクションのフローを独占し得ることがある。このような攻撃的オークションを公開呼び売りオークションにおいて行うことは、短期的に見れば特定の顧客に利益をもたらすかもしれないが、総体的に見れば、このような支配的売買は、価格形成を実際の市場から離れて歪んだものにし得、何人かのバイヤーおよびセラーに不満足な結果をもたらし得る。
【手続補正８】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１８】
本発明の別の目的は、証券を売買するプロセスをイネーブルするトランザクションを、より迅速かつより少ないエラーおよびコストでサポートするデータ処理方法を提供することである。
【手続補正９】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２３】
本発明のさらに別の目的は、高速通信パスによってリンクされた複数のワークステーションを含むコンピュータシステムを提供して、参加者が、市場データの高速配信を受け取り、市場データをやり取りすることを可能にすることである。
【手続補正１０】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２５】
本発明の別の目的は、価格の適用（ｅｘｅｃｕｔｉｏｎ）を改良する売買活動の開始を通じて、バイヤーおよびセラーが自身の総売買量を示すことを奨励することである。
【手続補正１１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３１】

本発明のさらに別の目的は、所与の参加者用のカスタマイズされた売買ツール（例えば、価格改良の注文、停止注文および限定注文、条件付き注文、フラグ警告等）を個別に提供して、これにより、特定の参加者が、売買の制限、マージン制限、売買開始制限等に到達することである。

【手続補正１２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３３】
本発明によれば、この制御論理は、以下の５種類の状況のような、各参加者の売買状況のシーケンスを提供する。

【手続補正１３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３４】
（表１）
１．入札－落札状況
２．Ｗｈｅｎ状況
３．ワークアップ状況
４．再確認（Ｓｅｃｏｎｄ　Ｌｏｏｋ）状況
５．ワークダウン状況

様々なトランザクションが入力されると、ワークステーションは、これらの５種類の状況において動作する。このワークステーションの「状況」により、当該参加者が利用することが可能なオプションが判定され、これにより、注文および売買のフローをコスト効率が良くかつエラーの無い様式で制御する。参加者は別々に構成されたワークステーションにおいて入札、落札および売買を行うのに対し、これらのプロトコルは全ての参加者に共通するため、トランザクションが強引な方式で制御される事態を、資本を関与させることなく回避できる。

【手続補正１４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３７】
（発明の詳細な説明）
本発明は、選択トランザクションをサポートする際に用いられる複雑な売買規則をインプリメントするデータ処理システムに向けられる。本発明の第１の局面は、プロセッサにより高度化されまたサポートされる売買のために専用の個別仕様を有するプラットフォーム、を提供する特定のハードウェア構成に関する。このハードウェア構成は、複数の個別仕様の通信の際に相互にリンクされるワークステーションを包含する。各ワークステーションは、中央サーバと通信を行い、この中央サーバは、プログラム制御論理に従って、売買プロセスを統括する。ワークステーションは、売買活動の詳細を表示するディスプレイを含む。好適には、カスタマイズされたキーパッドを用いて、参加者による高度なデータ／売買入力を行うか、または、参加者が選択した入力インターフェースが用いられる。

【手続補正１５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３８

【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３８】
本発明の第２に局面は、システムダイナミクスを制御するための管理論理である。この論理は、システムメモリに格納され、プロトコルのシーケンスと、売買の優先順位を割り当てる規則とを提供する。この論理はまた、参加者が入力した動作コマンドに対し、直接的にまたは仲介者あるいはワークステーションにいる端末のオペレータを通じて、システム応答を提供する。このシステム論理は、以下の２点において重要である。第１に、このシステム論理は、システムの基礎を為すガイド的原理として重要であるため、システムの性能はこのシステム論チャンネルに直結する。第２に、システム論理は、市場へのアクセスおよびその応答を管理する規則として全参加者に知らしめなければならず、これにより、如何なる混乱も排除し、また参加者の立場をできるだけ平等なものにする。本システムは好適には、登録された参加者全員に対し、売買プロセスへの公平かつ完全なアクセスを提供する。
【手続補正１６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３９】
後述する詳細をより良く理解してもらうために、本明細書中の用語の定義をまとめたものを以下に示す。本明細書中の例示的実施例は全て、確定利付証券およびこのような証券を大量に売買する状況（しかしこれらに限らない）に焦点を当てており、説明で用いる所与のトランザクションの量は、ドルを用いて表す（例えば、１０年ものの２５００万ドルの米国国債）（しかし、ドルだけに限定されない）。
【手続補正１７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４１】
入札　　証券を「購入」するために入札されるドルまたは利益の量－発行
落札　　証券を「売却」するために落札されるドルまたは利益の量－発行
値幅　　市場における最高入札額（単数または複数）と最高落札額（単数または複数）との差
発行　　一般的な種類の確定利付証券（例えば、最も最近に発行された１０年ものの米国国債）
参加者　　売買に関するデータを受け取り、受け取ったデータに応答する、個人または支配的エンティティ。参加者は取引者であることが多く、端末オペレータまたは仲介者は顧客を代表して行動することが多い。この構成以外にも様々な構成がある。例えば、顧客が参加者として直接相互作用を行い得る。他の様々な構成もまた可能である。
Ｈｉｔ　　取引中の入札を受容する
Ｔａｋｅまたは　取引中の落札を受容する
Ｌｉｆｔ
サイズ　　特定の入札－落札のドル額
メーカー　　取引中の入札および落札を有する参加者であり、市場を作っている

クリアされて　メーカーのみがビットまたはテイクすることができる現在の入いない入力　札－落札
取引者　売買が開始した後に（バイヤーまたはセラーとして）トランザクションに関与する全参加者
独占時間　売買活動によって開始される時間であって、この時間の間、最初に最高額で入札を行った者／落札を行った者が、より多くの売買を行う機会を有する
価格改良Ｈｉｔ　現在の証券売却の最高入札額以下で受容される売却注文－受け手側に示されたより多い量に関する開始時の発行
価格改良Ｔａｋ　現在の証券売却の最高入札額以上で受容される購入注文－受　ｅけ手側に示されたより多い量に関する開始時の発行
売買　ＨｉｔまたはＴａｋｅによって開始される１つ以上の価格におけるトランザクションのストリングであり、時間切れまたは完了するまで継続する。
侵害者　売買を開始する参加者
アクティブサイド　市場において侵害者と同じ側にいる取引者グループ
受け手側　市場において侵害者と反対側にいる取引者グループ
取引者黒字　受け手側に示されるサイズ全体を侵害者が１つ以上の価格レベルで売買した後で侵害者がより多くの売買を望む意図を示す状況または受け手側の参加者が現在の売買価格よりも高い価格または現在の売買価格よりも低い価格での売却を自発的に行う状況を示し、数量化する。これらの状況は、侵害者（単数または複数）と受け手側の参加者との間の価格改良売買の様態につながる。

【手続補正１８】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４４】
多くの参加者間の売買を制御するために、あるレベルの階層が設定される。参加者は、入札をＨｉｔするかまたは落札をＬｉｆｔすると、次に「侵害者」という新しいレベルに昇進する。入札または落札において活動することにより、侵害者は、売買のアクティブサイドを規定し（これにより確立する）。例えば、参加者が入札をヒットすると、売却状態は売買のアクティブサイドとなり、購買状態は受け手側となる。しかし、参加者が落札をテイクすると、購買状態はアクティブとなる。これは、実務面における重要な考慮事項である。というのも、いくつかの慣習では、アクティブサイドはその後のトランザクションにおいて手数料を支払うからである。しかし、価格改良売買を行えば、この売買に関する手数料を、売買に関わる参加者に分配することができる。この手数料の分配は、アクティブな参加者が流動性による利益を受け、受け手側は流動性を市場に供給するという考え方と、価格改良売買の間により良い価格が得られれば、受け手側の売買者に本人が自発的に支払う価格が提供されるという考え方とを前提としている。他の手数料（例えば、売買量の割引の選択、年間の固定料金、双方での支出、および実行時間および実行場所に基づく支払い）の組合わせの分配も、売買を促進することを保証する。

【手続補正１９】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４８】

図１は、本発明の動作の実施形態に見受けられる様々なハードウェア構成要素を示す。このコンテキストにおいて、複数のワークステーション１０が提供され、各ワークステーションは、ネットワークライン１５を介して中央サーバ２０にリンクされる。サーバ２０は、システムの制約条件に応じて個々のワークステーション１０へのデータフローの相互作用を管理する制御ソフトウェアを含む。

【手続補正２０】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６０】
【表１】

クアド１

100.01		2	100.03		15
Cust	Bid	Bot	CUST	Offer	Sold
2001	1	0	2007	5	0
2002	1	0	2006	10	0
TOTAL	2	0		15	0

上記のクアドにおいて、現在の入札価格は、「１００．０１」（１００＋１／３２）であり、同じ行をたどって、現在の落札価格は、「１００．０３」と設定されており、０．０２（２／３２）の値幅（Ｓｐｒｅａｄ）を示している。売買が入札－落札状況からのＨｉｔまたはＴａｋｅによって開始されて進行しているとき、参加者の注意は主に条件付きプロンプトに向けられ、この条件付きプロンプトは、入札または落札にかけられている総量を示し、また参加者による影響を受け得る。この総量の数値は、ＴＯＴＡＬの行と入札－落札列の１つとが交差している部分に表示される。この総量値はさらに、クアドにおいて個々のプレ数量として規定され、各行中に参加者数を示す。他のクアドまたは構成も、参加者または論理制御下にあり、売買状況情報を示し得る。

【手続補正２１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６１】
クアド１中の見出しＢＯＴおよびＳＯＬＤの上部に、第２の総数カウンタは、メーカーのサイズ全体を提供する。この入札－落札状況の場合、売買がまだ実行されていないため、メーカーのサイズ全体は条件付きプロンプトと同じである。この総数が変化するのは、「取引者リスト」が作成され、条件付きプロンプトが取引者の総数を追跡し、メーカーの総数がメーカーリスト中に残っている数を追跡し続ける、最初のトランザクションが行われた後である。

【手続補正２２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６３】
以下に、市場メーカーが様々な入札および落札をシステムに入力し、市場が成熟するま

で実行するのを待機するような、入札－落札状況に焦点を当てて説明する。最初に最高価格で入札および落札を行った者のみに、クリアする時間帯および独占時間帯における売買優先順位が与えられる。これらの保留中の売買関与状態は、現在現れているメーカーまたは第３者がＨｉｔ（またはＴａｋｅ）を出す前に自身の位置を示すことなく、現在現れているメーカーまたは第３者によるＨｉｔコマンドまたはＴａｋｅコマンドを介して影響を受け得る。新規の入札および落札が行われると、入札および落札は、自身の付随物と共に、時間順に配置された、等しく価格付けされた落札（または入札）によって、キュー内への配置を判定する。従って、市場が引き締められるにつれて、入札および落札が改良され（すなわち、値幅が低減する）、これらの新規位置は、図示のように最上位のキューへと移動する。

【手続補正２３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６４】
価格、入札および落札に加えて、保留中の入札（または落札）のドル量を表すためのサイズ的要素が含まれる。参加者が入札または落札のサイズを増加させる際、新規の入力が作成され、個別にキュー内に配置される。これは、キュー中の既存の入札－落札の時間の直後に入力が作成されない限り、システムがサイズ的要素をインクリメントしないからである。あるいは、サイズは、以下のような様式でも組み合わされ得る：すなわち、この状況の間に入札および落札が入力されると、これらの入札および落札は、各々のサイズに関して表示され、入札－落札の総数（サイズ全体）が、示された条件付きプロンプトで表示される。このように、条件付きプロンプトは、所与の価格における明示的な市場容量の目安となるため、トランザクションへの主要な原動力として機能する。

【手続補正２４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６５】
入札－落札は、入札－落札状況の間、「クリアされていない」ものとして入力されることが多く（しかし、いつもそうであるとは限らない）、これにより、入札または落札を行うことができるのは、最初の最高価格での市場参加者（すなわち、第１のキューの最上部）のみであることを示す。従って、システム設定時間間隔の間にクリアされていないの提示物にアクションを行うことができるのは、このような参加者のみであり、このような参加者のみが、これらのクリアされていない入力をＨｉｔまたはＴａｋｅすることができる。（システム内部の時計により計時される）この時間間隔が経過した後、これらのクリアされていない入札／落札は、（その時点で現存する場合は）最高価格の参加者の他にも利用可能となる。実際、特定の証券の場合、この時間間隔はゼロであり得る。ほとんどの場合、既知の間隔が確立される。この構成には、ビジネス目的がある。新規入力を最初に行う際に参加者がアクティブな入札－落札を行うことを可能にすることにより、これらの参加者は、自らの近傍の市場を示すという利益が与えられる。従って、最初の入札者／落札者は、侵害者となるように促され、システムのこの事前設定された間隔は、これらの入札者／落札者に、新規バイヤーおよび新規セラーがこの個々の間隔において売買に参加する（すなわち、ヒットまたはテイクする）ことを妨げることにより、自身で判定することのできる時間を提供する。

【手続補正２５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６６

【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６６】
入札－落札状態に関連するロジックにおけるシステムを図６のロジックに示す。概念的に、ロジックは、ブロック６００で開始し、ブロック６２０でデータ／コマンド入力ブロックを有する。状態セレクタは、状態を入札－落札として認定する（ブロック６２０）。ブロック６３０において、ＣＵＳＴ　Ｘのプロフィールを新しい入力から取り出し、そしてすべての関連データがパラメータストリングへ渡され（ブロック６４０）、入力される。
【手続補正２６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００７２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００７２】
画面表示は、入札処理への種々の入力にしたがって変化し得る。以下に図示するクアド２において、入札側の参加者３００１～３００３は、二千七百万の市場を反映する、条件付きプロンプトを参照；合計ライン上の「２７」。これは、参加者ＣＵＳＴ３００１による５．０百万の第１入札、続いて少し後に２千万の第２入札を含む。この場合、参加者ＣＵＳＴ３００７（例えば、銀行または他の機関の参加者）は、１千万の不明な落札を有するピクチャを入力した（アスタリスクは、落札が不明であることを示す）；これは落札側の条件付きプロンプトライン上に示される１千万である。したがって、ロジックを制御する工程は、オリジナルメーカーに３００７による新しい落札に対する第１のチャンスを与える。その間隔の後、市場は、再度開かれ、そしてアスタリスクが除かれる。
【手続補正２７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００７４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００７４】
特に、上記のように、不明ステータスは、所定の間隔（コンピュータ駆動タイマによって制御される）の間存在する。Ｗｈｅｎ状態が設定され得るのは、この時間間隔の間だけである。この時間間隔は、第１の最良のオリジナルメーカーもしくはアクティブサイドのアクション、またはシステムロジック内の間隔タイマの期限切れのいずれかによって解決されるまで続くだけである。
【手続補正２８】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００７８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００７８】
しかし、テスト８２０への肯定応答は、ロジックをブロック８３０に分岐させ、ここでメーカーはあらかじめ設定された時間間隔のあいだ阻止される。続いてブロック８４０において、すべての現在のアクティブサイドメーカーは、ゼロにリセットされる。テスト８５０において、システムは、これらのメーカーが時間間隔が期限切れとなる前に侵入者を阻止するかどうかを決定する。はいならば、阻止するメーカーは、以下の取引シーケンスを介して完全に制御する侵入者となる（ブロック８６０）。いいえならば、新しい侵入者が設定され（ブロック８７０）、そしてロジックは、次の状態（ブロック８８０）に移る。
【手続補正２９】

【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００７９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００７９】
以下のシーケンスは、前記のシステムロジックを反映する。以下のクアド３Ａにおいて、入札－落札状態は、２つの参加者ＣＵＳＴ３００２および３００３を有し、各参加者は１千万で入札を示す。参加者ＣＵＳＴ３００７は、１百万に対して不明な落札を設定した。参加者ＣＵＳＴ３００１は、参加者ＣＵＳＴ３００７による新しい落札をとることを望むが、参加者は自動的にはとれ得ない。以下のクアド３Ｂにおいて、システムをＷｈｅｎ状態に強制する参加者ＣＵＳＴ３００１は、参加者３００７による落札をとることを試み、そしてアクティブサイド（ここでは入札）に対する不明なリストを生成する。しかし、最初の２つの入札者の所定量は、ゼロに低減される。なぜなら、システムロジックは、これらの入札が新しい価格ポイント（１０８．０４＋）において実施され得ないことを要求するからである。この実施例において、第２の間隔タイマは、両方のオリジナルメーカー（３００２および３００３）に参加者ＣＵＳＴ３００１よりも高い優先順位を提供する。参加者ＣＵＳＴ３００２はキューにおける配置を介してすべての優先順位を維持する。
【手続補正３０】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００８２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００８２】
現在のワーカーの状態は、参加者による「終了」の入力時、または売買無活動期間（ｔｒａｄｉｎｇ　ｉｎａｃｔｉｖｅ　ｉｎｔｅｒｖａｌ）の経過時に消滅する。また、この期間は、システム論理により引き起こされる、予め設定されたシステムパラメータである。このような終結がなければ、現在の実行者は、取引相手のサイズでの提供物に応じ続ける限り、ほぼ無期限に売買を行うことができる。
【手続補正３１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００８４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００８４】
テスト９３０に肯定の応答をすることにより、論理はブロック９４０および９５０へと進み、ここでは、現在の実行者が選定され、他の参加者を除いて、現在の実行者により新たな売買に入る。これらの条件下において、１より多くの価格キュー（ｐｒｉｃｅ　ｑｕｅｕｅ）が受動側に存在する場合、システムは価格改良売買の準備をする。これに関連して、侵入者は、最良の売り－買い（ｂｅｓｔ
Ｏｆｆｅｒｓ－Ｂｉｄｓ）よりも悪い価格で売買したい意向を示す、複数の価格点において売買を行う。システムは、売買の相手のそれぞれに示した最高価格と最低価格の間の開きを測定する。数学的に判定された値が、２つの価格点の間を埋めて（例えば、２つの価格点の平均が）設定される。これは、その売買人に関する、新たな価格差変数（デルタ（ＩＤ））により、ブロック９５５で実行される。この新たな価格点（両者の立場から見ての「価格改良」）が与えられると、新たな売買に入り（テスト９６０）、処理される（プロック９７０）。これは、現在の実行者が終了するか、または時間切れになるまで継続する（ブロック９８０）。システムは、次いで、新たな参加者により（ヒットまたは取得コマンドにより）入力されたいずれかの新規取引に関してテスト（ブロック９６５）、および実行を行う（ブロック９７５）。
【手続補正３２】

【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００８６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００８６】
【表５】

クアド 4A

> 7.625.225 TZ
108.04 16 108.05+ 45

Cust	Bid	BOT	Cust	Offer	SOLD
3001	5	0	3007	25	0
3002	5	0	3006	10	0
3003	1	0	3005	10	0
3001	5	0			
TOTAL	16	0		45	0

参加者、すなわち、受動側に全サイズ（１６００万）を売る顧客３００５が買いをヒットしたと仮定する。この結果、参加者（顧客３００５）は侵入者となり、売買相手（参加者、顧客３００１）が現在の実行者となる。侵入者が受動側から最初のサイズの全てを取得したこの時点で、ワークアップ状態となる。優先順位を有する者、すなわち、侵入者および第１の最高入札者が、矩形の囲みによって示された映像属性により強調表示される（表４Ｂ参照）。
【手続補正３３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００８７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００８７】
【表６】

クアド 4B

> 7.625.225 TZ Refno 68119
108.04 Hit 16 108.05+ 36

Cust	Buy	BOT	Cust	Sell	SOLD
3001	0	10	3005	0	16
3002	0	5			
3003	0	1			
TOTAL	0	16		0	16

継続を希望する参加者（顧客３００２）は、「購入（Ｂｕｙ）」の下の５および「購入

済（ＢＯＴ）」の下の５で示される、（参加者（顧客３００２）の元々の５００万に加えて）５００万のサイズをさらに追加する（表４Ｃ参照）。次に、新たな参加者（顧客３００４）が、５０００万の売り注文（ヒット）を入力する。

【手続補正３４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００８８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００８８】
【表７】

77F' 4C

> 7.625.225 TZ Refno 68119

108.04 Hit 16 108.05+ 36

Cust	Buy	BOT	Cust	Sell	SOLD
3001	0	10	3005	0	16
3002	5	5	3004	50	0
3003	0	1			
TOTAL	5	16		50	16

この新たな参加者（顧客３００４）は、（キーボード入力、またはタイマーで制御されたシステム期間により）現在の実行者が終了するまで待たなければならない。この後、システムは、参加者（顧客３００４）のために、参加者（顧客３００２）に対して、さらなる５００万の販売を実行し、販売予定残高が４５００万となる。参加者（顧客３００４）が参加者（顧客３００２）と売買を行った後の表示を示す、表４Ｄを参照する。参加者（顧客３００１）および参加者（顧客３００５）の入力項目の横のアスタリスクは、これらの最初の売買人が終了または時間切れとなったことを示す。

上述の表４Ｄに示すとおり、現在の実行者がもう存在しないため、他者を除外した売買を管理する者が存在しない。

【手続補正３５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００９１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００９１】

しかしながら、再確認には制限がある。侵入者は、新しい（すなわち、「時間が経過していない」）買い－売り以外の取引を完了しなければならない。この新たなサイズは売買されないままで、他者が、これに対してさらなる買い－売りを受動側に追加し得る（しかしながら、これらはラインの下側に留まる）。たとえ、侵入者が表示されたサイズ全体を満たさなかったとしても、侵入者は現在の実行者の状態を獲得し、以下の権利を有する。

１．新たなサイズを取得し、売買の相手とワークアップ状態を生成する。

２．新たなサイズを拒否する。（「終了」コマンドによる）侵入者の拒否により、売買はワークダウン状態に設定される。

３．「部分的な」額を取得／ヒットし、次いで、優先権を喪失することにより、システムがワークダウン状態に入る。

【手続補正３６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００９５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００９５】
再確認状態は、図９に示す論理により管理される。この構成において、売買コマンドは、ブロック１０２０で、入力時間を記録される。残存する受動状態にする入力項目も入力され（ブロック１０３０）、テスト１０４０が受動側の入力項目（（ＰＡＳＳ（ＩＤ））が、「時間が経過した」、すなわち、それほど直近には入力されていないかどうかを判定する。もし時間が経過していれば、論理は、テスト１０９０へと分岐し、ＰＡＳＳ（ＩＤ）が最後の入力（ＰＡＳＳ－ＥＮＤ）であるかどうか判定する。もし最後の入力でなければ、次の入力が論理でインクリメントされ、シーケンスの開始点へと戻る。
【手続補正３７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００９７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００９７】
これらの原理は、下記の表５Ａ～５Ｃの後に続く一連の画面表示で詳細に示されており、ここでは、参加者（顧客３００１、３００２、および３００３）が、それぞれ、５００万、１００万、および１００万購入した場合が示されている。参加者（顧客３００７）が（「全部」をヒットして）売り注文をする直前に、顧客３００４が１００万のサイズを入力する。システム期間タイマーにより、十分に「時間が経過した」と判断されていないため、この最新の１００万以外の全サイズが取引される。この額は取引されないままで、システムは再確認状態に入る。
【手続補正３８】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００９８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００９８】
【表９】

TABLE 5A

> 7.625.225 TZ Refno 68119

108.04 Hit 7

Cust	Buy	BOT	Cust	Sell	SOLD
3001	0	5	3007	0	7
3002	0	1			
3003	0	1			
3004	1	0			
TOTAL	1	7		0	7

参加者（顧客３００７）が、この取引されていない１００万のサイズを満たすことを決定した場合、「再確認」状態から出て、ワークアップ状態へと移動し、参加者（顧客３０

０７）と、参加者（顧客３００１）が現在の実行者となる。表５Ｂに示すとおり、参加者（顧客３００７）は、また、２００万の取引額の売り注文を入力する。優先順位ボックス（ｐｒｉｏｒｉｔｙ　ｂｏｘ）の点滅または強調表示により、侵入者が再確認状態にあることを表わす。

【手続補正３９】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１００
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１００】
【表１１】

ｱﾌﾄﾞ 5C

> 7.625.225 TZ Refno 68119

108.04 Hit 7 0

Cust	Buy	BOT	Cust	Sell	SOLD
3001	0	5	3007	0	7
3002	0	1			
3003	0	1			
3004	1	0			
3005	1	0			
TOTAL	1	7		0	7

売買の論理に関する別の状態はワークダウン状態として知られており、元の侵入者が受動側に示すサイズの全てよりも少なく取得する場合に発生する。残りのサイズは、売買を完了するためにワークダウンされなければならない。これにより、買い－売り（購入／販売の意向）を示す参加者に利益を与え、市場に流動性が提供される。元の侵入者が、受動側から残りのサイズのために戻る場合、ワークアップ状態が開始される。能動側からの別の売買人が、受動側の残高を「ワークダウン」得、元の買い－売り状態からの残りのサイズの全てが取得される場合、売買が、占有時間を獲得することを含むワークアップ状態に進み、この新たな売買人が現在の実行者となる。

【手続補正４０】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１０１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１０１】

ワークダウン状態により、新たな侵入者が、図１０のフローチャートに従った論理で、受動側のヒットされていない残りの買いを完了することができる。この処理において、売買コマンド（ＣＭＤ（Ｉ））がブロック１２１０で入力される。テスト１２２０で、システムは、売買が全受動側（合計）よりも小額であることを確認する。もし小額でない場合、論理はブロック１２８０に分岐し、ワークアップ状態へと向けられる。

【手続補正４１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１０３
【補正方法】変更
【補正の内容】

【０１０３】
重要であるのは、受動側に現れる新たな売買人が、元々のサイズの残りの全てがワークダウンされるまで待たなければならず、新たな売買人の位置は、ラインよりも下に位置される。これは、表６Ａ～６Ｃに示す。
【手続補正４２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１０４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１０４】
【表１２】

クアド 6A

> 7.625.225 TZ
108.04 15 *108.04+ 25

Cust	Bid	BOT	Cust	Offer	SOLD
3001	5	0	3007	25	0
3002	10	0			
TOTAL	15	0		25	0

表６Ａにおいて、買い－売り状態は、５００万の買いを示す参加者（顧客３００１）、および１０００万の買いを示す参加者（顧客３００２）を示している。侵入者として、参加者（顧客３００１）が，参加者（顧客３００７）からの売りを取得するが、参加者（顧客３００７）が示す２５００万の５００万分のみであり、２０００万が受動側に残される（表６Ｂ参照）。
【手続補正４３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１１０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１１０】
上述した内容が証明するように、価格改良取引における侵入者になることで、売却注文または購入注文がシステム上に表示された入札および落札の現在の状態によって明らかになる価格よりも良い価格で実行され得るという可能性を侵入者がもたらす。それを行うことで、侵入者は修正ワークアップ状態を開始する（上述した図８を参照）。
【手続補正４４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１１１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１１１】
クアド７Ａに示すように、入札および落札の３つのレベルがある。示された入札および落札のレベルの数はシステムパラメータであり、典型的には入札および落札側上の価格増加の数、すなわち、基本的な列（例えば、１１３２増加）に結び付けられる。つまり、代替的な層配列は通常の配列（例えば、「上位５つの層」）を含む。全ての参加者は、１００．０１から１００．００にまでの範囲の合計６７００万（２＋２０＋４５）について４

つの落札があり、１００．０２から１００．０３＋にまでの範囲の合計８５００万（１５＋１０＋６０）について５つの落札があることを認識し得る。これは単一の列の入札－落札状態と対比され、ここで１００．０１における合計２００万の２つの入札および１００．０２における合計１５００万の２つの落札のみが示される。

【手続補正４５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１１３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１１３】
【表１５】

クアド７Ａ

100.01 2 100.02 15

	Cust	Bid		BOT		Cust		Offer	SOLD
	2001	1		0		2007		5	0
	2002	1		0		2006		10	0
	TOTAL	2		0				15	0
100.00+			20		100.03		10		
	2005	20				2008		10	0
	TOTAL	20						10	0
100.00			45		100.03+		60		
	2012	45				2007		20	
						2011		40	
	TOTAL	45						60	0
100.45x.00	20 x .00+ 2x 2x .01 X 15x .02 10x.03 60x .03+								

価格改良に伴うワークアップ状態の論理は、価格改良が開始される場合に、参加者が価格改良取引に参加できることにより、示される最良価格から離れても、参加者に自身の取引の意志を明らかにするように助長する。例えば、最良な市場価格１００．０１および１００．０２から離れて侵入者になることにより、価格改良は参加者に付随する。この意志を明らかにすることにより、価格余剰に関連する総額を作り上げる間に、侵入者は可能な価格改良についての第１の優先順位を得る。優先順位ランク付けは、価格改良取引が開始すると形成される購入者余剰または売却者余剰に参加者間で割り当てられることによって、最適な市場１００．０１および１００．０２よりも良い価格で、購入および売却についての機会を提供する。

【手続補正４６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１１５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１１５】
一度取引を開始すれば、状態シーケンスは単一価格取引の倫理に従う。例えばクアド７Ａに図示される価格改良入札－落札状態において、新規の売却者は、９０００万から９９．３１まで下げて売却するコマンド（すなわち、９９＋３１／３２ｎｄｓ）を有する侵入

者になる。利用可能な「最良価格」で売却する売却者の能力を改良するために、優先順位が価格および時間基準で、または価格および時間を含む基準、あるいは同様に大きさを含む基準によってランク付けされるような第１の最適な入札者に、６７００万がヒットされた後で改良された価格において付加的な出来高を売却する機会を提供する。すなわち、１００．０１における２００万の売却、１００．００＋における２０００万の売却、ならびに１００．０における４５００万の売却。９９．３１万までに合計９０万を売却することを申し出ることにより、売却者は初めに６７００万を売却し、２３万以上を売却する「意志」を有する。次に第１の最適な入札者は、改良価格においてさらに実行し得る。改良レベルは、入札価格１００．０１（すなわち、１００＋１／３２）および９９．３１の保留価格の間で割り当てられる。従って、購入者２００１は、９９．３１の売却者を有する残り２３００万を取引し、次いで、１００．００における２３ヒットの価格改良取引が完了する。この場合、購入者２００１は、自身の入札レベル１００．０１において、２３００万以上を購入しようと努めて、自身の優先順位を維持する。しかしながら、実際の取引価格は、自身の９９．３１の保留価格以上の０．０１（１／３２）の価格改良を購入者に提供し、売却者に同額の０．０１の価格改良を提供する１００．００である。

【手続補正４７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１１６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１１６】
このシステム論理は、取引の能動側と受動側との間の余剰取引者を割り当て、双方に利益を与える。代わりに、システム論理は余剰を割り当てることも行い得る。例えば、侵入者に余剰の２／３または余剰の全てを提供し、または余剰を提供しない。割り当て機構はまた、取引の大きさまたは他の消費者特性または取引特性に従い動的に変化し得る。システムは、シーケンスが１組の価格改良取引であることを示す強調表示を組み込み、３つの取引シーケンス（１００．０１における２、１００．００＋における２０、１００．００における６８（４５＋２３））を現わす。あるいは、平均価格における総取引が表示され得る。取引が終了すると、システム論理は制御を入札－落札状態に戻す。

【手続補正４８】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１１７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１１７】
価格改良処理には、異なる価格レベルにおける複数の入札－落札を提示および表示する別個の機構がある。第１のオプションは入札－落札について全てを削除することである。すなわち、下位の落札は表示されない。第２のオプションは、自身の価格がよりよい価格として上位にある場合に、表示したままにしておくか、または削除するかに関する選択を入札者に提供することである。第３のオプションは、上位にある場合でさえ、スクリーン上に全ての入札を表示することである。これは「キャンセルまで有効な」落札を形成する。他のオプションは、システムが制御パラメータを制御することによって、参加者の入札および落札をカスタマイズすることを可能にする。

【手続補正４９】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１２２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１２２】

【表１６】

クアド７Ｂ

100.01 to .00 HIT 67

	Cust	Buy	BOT	Cust	Sell	SOLD
100.01+	2009	20				
100.01	2001	5	1	2008	23	67
	2002	5	1			
TOTAL			2			
100.00+	2005	0	20			
TOTAL			20			
100.00	2012	0	45			
TOTAL			67			

ＣＵＳＴ　２００１は、本来の最適入札者にさせることにより、参加者ＣＵＳＴ　２００２および参加者ＣＵＳＴ　２００９よりも上の優先順位を有し、自身の本来の価格においてさらに購入しようとする。限られた時間の終盤において、売却される２３００万のうち２０００万は、示される最適売却に一致する、従って２０００万がＣＵＳＴ　２００９に対して売却される。残高３００万は参加者ＣＵＳＴ　２００１に対して売却される。１００．０１＋価格に一致しないことにより、ＣＵＳＴ　２００１は３００万を得るのみである。価格および時間優先順位を維持することで、価格改良が得られ、侵入者は保護される。この取引をクアド７Ｃに示す。

【手続補正５０】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１２３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１２３】

【表１７】

ｱﾌﾄｳC

100.00 X 45 .00 + X23 .01X22HIT

	Cust	Buy	BOT	Cust	Sell	SOLD
100.01	2001		1	2008		22
	2002		1			
	2009		20			
TOTAL			22			22
100.00+	2005		20	2008		23
	2001		3			
TOTAL			23			
100.00	2012		45	2008		45
TOTAL			45			45
TOTAL			90			90

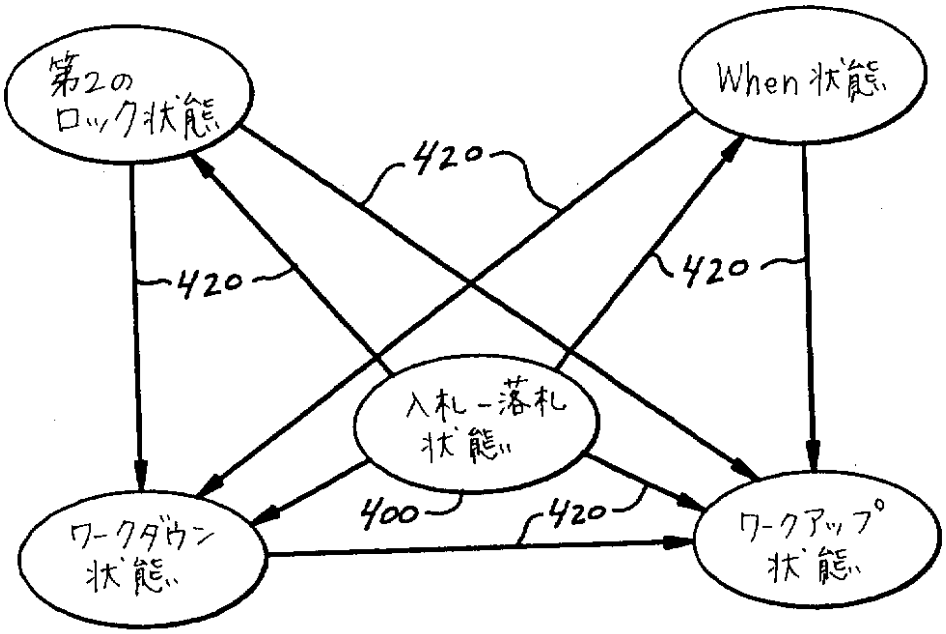
参加者は入力装置を介して価格改良取引の間に、システム論理と相互にやり取りをする。多数の入力装置が、図１２に示される特化されたキーボードにより、例示されるように使用され得る。このキーボードは特定のＬＣＤキーを含み、これら機能および表示は取引プロセッサ状態に直接結合される。キーボードは５つのＬＣＤキー各々からなる２つの垂直列および７つのＬＣＤキーからなる１つの水平列を有する。ＬＣＤキーの水平列は、両方の入札で利用可能な３つの異なる価格レベルを動的に表示する。この列は「価格列」と呼ばれる。これは取引プロセッサ中の価格変動についてリアルタイムにアップデートを表示する。この列中の中央キーは、価格増加総額を示す。最も適切な増加金額は、最適市場と最不適正市場間に広がる範囲に基づいて取引プロセッサにより決定される。この増加金額はまた、価格が変動するに従いリアルタイムにアップデートされる。入札価格は最適から最不適切の順で、中央キーからキーボードの左に動く。同様に、落札価格は右側に動く。異なる価格レベルが価格改良入札－落札状態に出現すると、入札価格は価格列中に表示される。データ入力を促進し、迅速に相場に反応するために、参加者は単にＬＣＤキーの１つを挿すことだけを必要とし、どの価格レベルが参加者の所望する取引であるかを選択する。価格を選択した後、参加者は、ＬＣＤキーの垂直列により表されるアクションキーの１つを選択する。参加者がその時点で市場に示されている価格の前後で取引を所望する場合、参加者は増加キーを使用し、参加者がどれだけ離れた価格を所望するかを示すことができる。

【手続補正５１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１２７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１２７】

本発明は好適には、未整理の順序をキャンセルするか取引状態時に実行をロールバックすることのいずれかによって効果的に取引を「取り消す」方法を参加者に提供する。図３Ａ～図３Ｂに図示するように、キーパッドはキャンセル、完了および取り消しキーを提供し、このプロセスを促進する。システムが特定の状態にある場合のこれらのキーの機能は

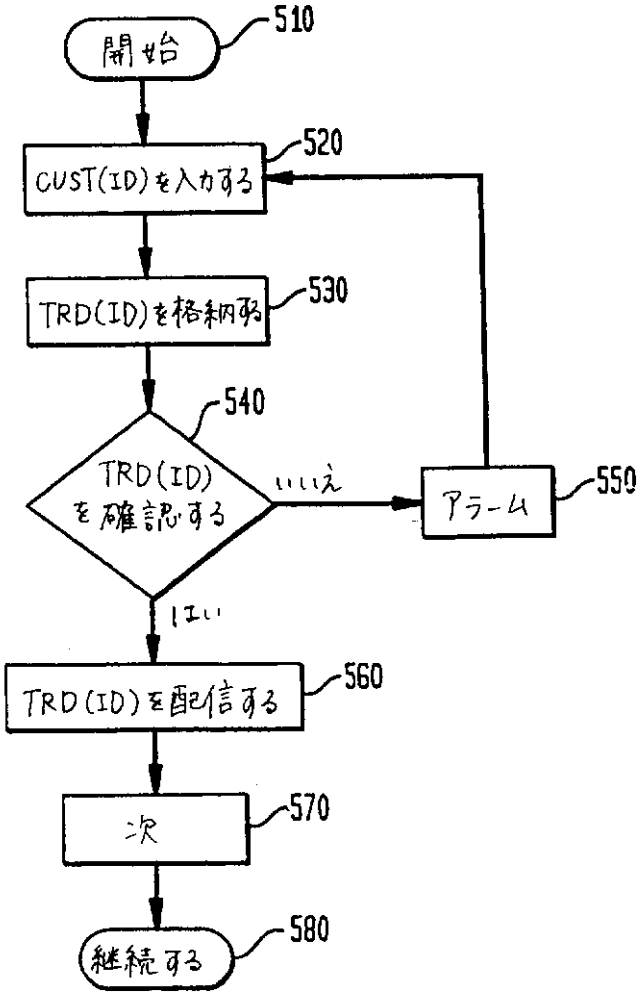
以下に記述され、これらのキーに与えられた名前は任意であり、任意の入力手段が所望のアクション（単数または複数）をとるために使用され得ることが理解され得る。
【手続補正５２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１２８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１２８】
入札－落札状態において、キャンセルコマンドは製造業者の既存の相場を、キーストロークを有する１以上の証券から除く。
【手続補正５３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１２９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１２９】
日時状態において、製造業者市場に反する差し迫った能動購入注文または能動売却注文が存在しない場合においてのみ、キャンセルは、製造業者市場を除く。また、完了は潜在的な侵入者および取引参加者を、注文が一致する以前に取引リストから除去する。
【手続補正５４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１３０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１３０】
ワークダウン状態において、キャンセルは任意の残存する受動的な製造業者の相場を除く。完了はキャンセルと同様の機能を行い、またワークダウン状態の受動的な取引参加者が取引リストから自身を除くことを可能にする。その結果、システムが受動的な取引参加者を実行する機会を得る前に、約束された大きさは効果的に除かれる。初期取引後所定の時間期間において実行される場合、取り消しは取引を「展開」し、かつ参加者に対して示す大きさを減少するように機能する。さらに、取り消し機能は受動生産業者全てが取引する総計を比例的に減少させる。所定時間周期を制限することで、取引者がこの訂正機能の不正な利益を取得することを思いとどまらせる。類似的に、たった１つの取引者が取引に参加する場合、取り消し機能は、取引者が、取り消される所望の大きさについて相手側に参加させる。取り消し機能は、能動側または受動側においていかなる時間においても、いかなる参加者によっても引き起こされ得る。つまり、システムはこの取引プロトコルの公平さを維持するために論理制御を適用する。
【手続補正５５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３６】
【図１】図１は、本発明の特徴的ハードウェア構成要素を示すシステムブロック図である。
【図２】図２は、売買に関連する情報を伝送する様子を示すフロー図である。
【図３Ａ】図３Ａは、専用キーパッドの特徴的機能を示す。
【図３Ｂ】図３Ｂは、専用キーパッドの特徴的機能を示す。
【図４】図４は、様々なシステム状況とこれらの状況間の経路とのブロック図である。
【図５】図５は、売買データ入力の論理図である。

【図６】図６は、入札－落札状況の論理図である。
【図７】図７は、Ｗｈｅｎ状況の論理図である。
【図８】図８は、ワークアップ状況の論理図である。
【図９】図９は、再確認状況の論理図である。
【図１０】図１０は、ワークダウン状況の論理図である。
【図１１】図１１は、売買論理を表にまとめたものである。
【図１２】図１２は、本発明を実施する際に有用な双方向キーボードの図である。
【手続補正５６】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】図４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【図４】



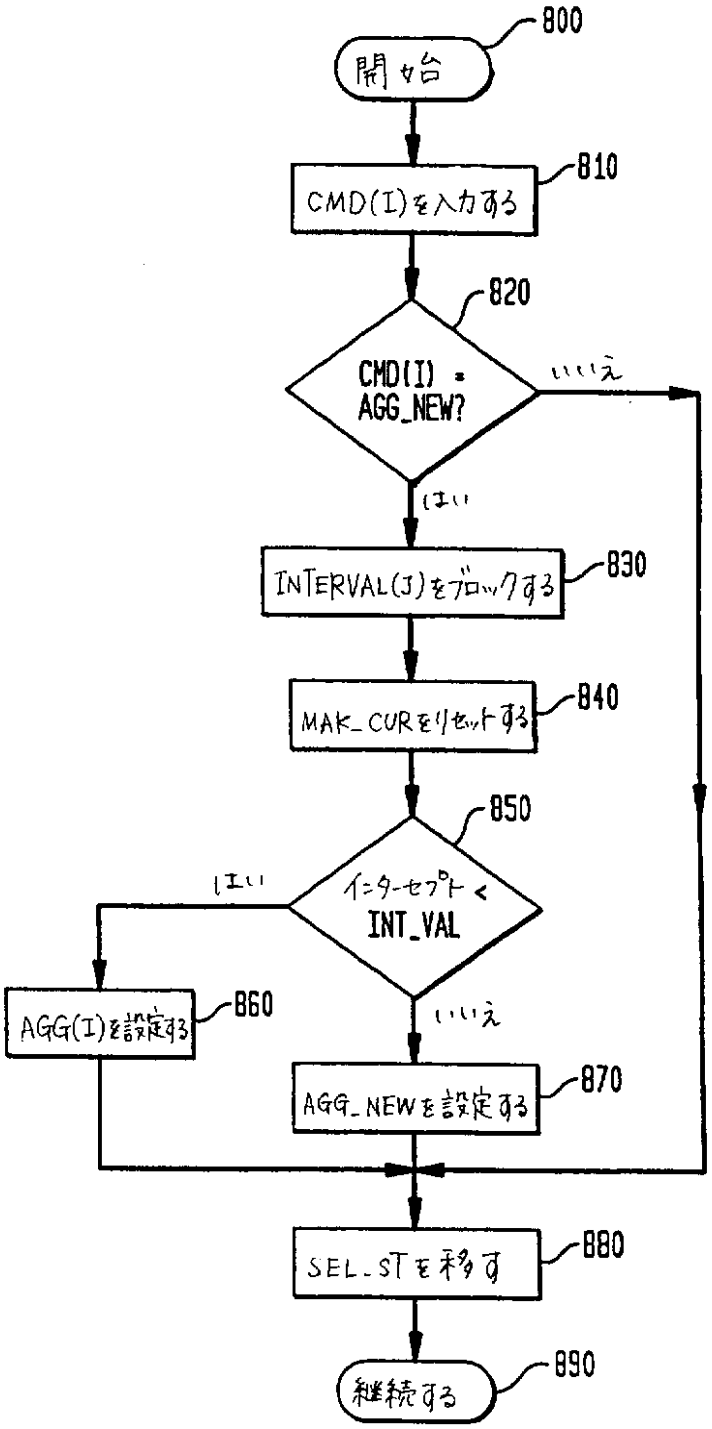
【手続補正５７】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】図５
【補正方法】変更
【補正の内容】

【図５】



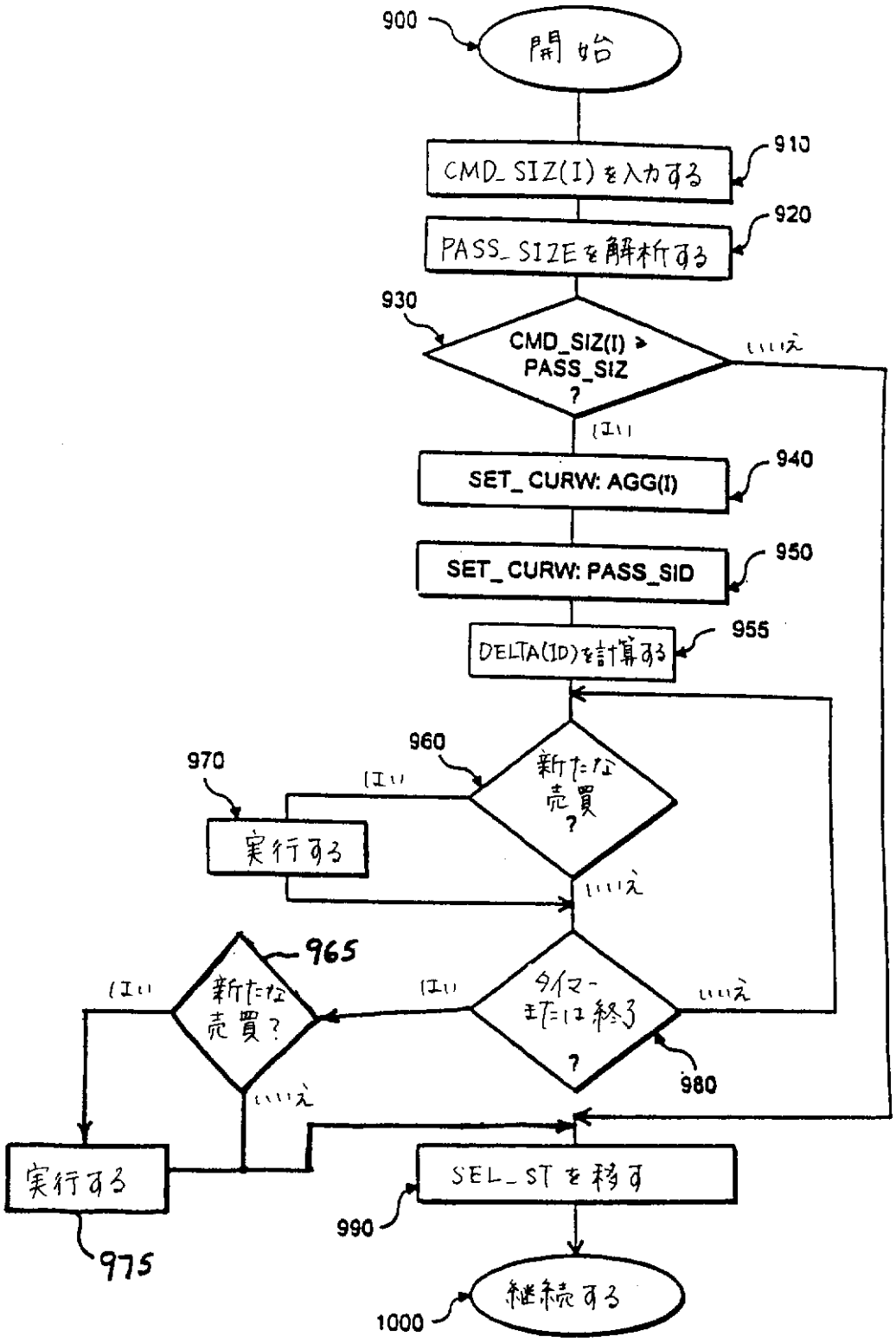
【手続補正５８】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】図７
【補正方法】変更
【補正の内容】

【図７】



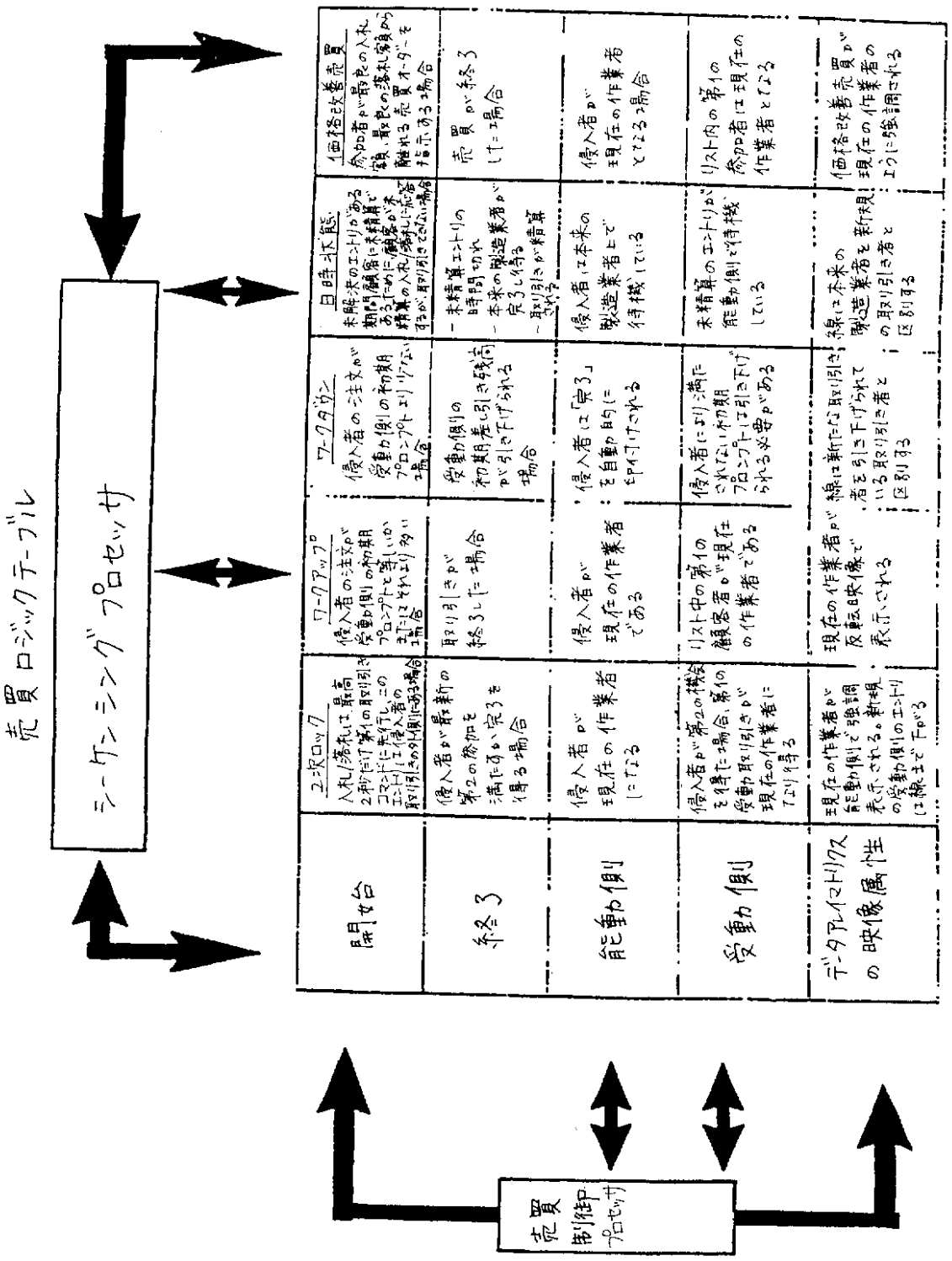
【手続補正５９】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】図８
【補正方法】変更
【補正の内容】

【図８】



【手続補正６０】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】図１１
【補正方法】変更
【補正の内容】

【図１１】


売買ロジックテーブル
シーケンシングプロセッサ
開始
終了
能動側
受動側
データアレイマトリクスの映像属性
ユーザロック
入札/落札は最高2秒だけ第1の取引きコマンドに先行し、このエントリは侵入者の取引きの外側にある場合
侵入者が最新の第2の参加を満たすか完了を得る場合
侵入者が現在の作業者になる
侵入者が第2の機会を得た場合、第1の受動取引きが現在の作業者になり得る
現在の作業者が能動側で強調表示される。新規の受動側のエントリは線上で下がる
ワークアップ
侵入者の注文が受動側の初期プロンプトと等しいか上にはそれより多い場合
取引きが終了した場合
侵入者が現在の作業者である
リスト中の第1の顧客者が現在の作業者である
現在の作業者が反転映像で表示される
ワークダウン
侵入者の注文が受動側の初期プロンプトより少ない場合
受動側の初期差し引き残高が引き下げられる場合
侵入者は「完了」を自動的に印付けされる
侵入者により満たされない初期プロンプトは引き下げられる必要がある
線は新たな取引き者を引き下げられている取引き者と区別する
日時状態
未解決のエントリがある期間顧客に未精算であるために顧客が未精算の入札/落札に応答するが、取引きできない場合
- 未精算エントリの時間切れ
- 本来の製造業者が完了し得る
- 取引きが精算される
侵入者は本来の製造業者上で待機している
未精算のエントリが能動側で待機している
線は本来の製造業者を新規の取引き者と区別する
価格改善売買
参加者が最良の入札額、最良の落札額から離れる売買オーダーを指示する場合
売買が終了した場合
侵入者が現在の作業者となる場合
リスト内の第1の参加者は現在の作業者となる
価格改善売買が現在の作業者のように強調される
売買制御プロセッサ